

## 第12期第1四半期業績のご報告

(平成19年7月1日～平成19年9月30日)

平成 19年 11月 吉日  
 日本システムバンク株式会社  
 代表取締役社長 野坂 信嘉

第1四半期におけるわが国経済は、円安や低水準の金利動向、アジア経済の成長を背景に企業収益が増大し、設備投資の拡大、個人消費の改善など景気は概ね好調に推移しました。しかしながら、原油、鋼材などの原材料費の高騰、株式市況の低迷、円高への懸念など国内経済に不安要素を抱えている状況であります。

駐車場業界におきましては、首都圏の不動産価格が上昇し、投資利回りが低下している状況にあります。そのため、収益傾向の強い不動産ファンド、REITなどが地方の物件を競って取得する状況が続きました。また、改正道路交通法施行により駐車場に対する需要が押し上げられるといったプラス要因が見られたものの、駐車場需要増加に伴う競合会社の出現、地価高騰による駐車場賃借料の上昇など当業界にとってマイナスとなる側面も見受けられました。

このような事業環境のなか、当社は、首都圏を中心とした積極的な営業展開を実施致しました。

CPシステム運営事業においては、好立地の新規CPシステムの開設及び既存CPシステムの稼働率向上に注力致しました。しかしながら、地価高騰の影響を受け、オーナーに支払う賃料が増加し、不採算CP及び低収益CPの発生、高収益CPの解約、管理システム販売を積極的に行わなかったことが起因となり、当事業はやや低調に推移致しました。

CPシステム販売管理事業においては、首都圏を中心に好調を持続致しました。コインパーキングに興味関心を持つオーナー及び運営業者に対し積極的な営業展開を実施致しました。また、メンテナンスの強化を図り、迅速かつ的確なアフターフォローを心がけ、安全に安心して利用できる駐車場の提供、顧客満足度のアップに努めました。

プロパティマネジメント事業においては、既存物件の付加価値向上に向け、積極的にリノベーションを図り稼働率の向上を図りました。また、管理コストの削減、利用者の募集活動、店舗のPR活動、入居者斡旋業務の促進及び営業サービスの向上に注力し、当事業は好調に推移致しました。

以上の結果、第1四半期の売上高は 1,224,332 千円(前期比 109.9%増)と堅調に推移致しました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

事業区別	金額	前年比
CPシステム運営事業	575,532 千円	95.8%
CPシステム販売管理事業	538,350 千円	126.0%
プロパティマネジメント事業	99,390 千円	138.8%
その他	11,059 千円	89.1%

当期は、新事業のビュート事業本部を独立させ、平成 19 年 8 月 31 日付でビュート株式会社を設立致しました。健康、美容ブームがもたらすフィットネスの需要が高まるなか、モデルスタジオの開設を契機として、ビュートシステムの販売促進が図られております。今後とも、遊休不動産の活用のため、効率的な活用方法を追求し、多種多様なニーズにお応えできるシステムをお客様に提供して参ります。今後ともあたたかいご支援ご厚情を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

